



年間第 15 主日 (ルカ 10:25-37)

人を行動へと駆り立てる深い憐れみ

金曜日の安倍元総理大臣の死去のニュースには目を疑いました。すべての命に心を寄せておられる神様に信頼を寄せて、心からご冥福をお祈り申し上げます。どんな理由にせよ、暴力で人を黙らせ、社会を黙らせようとする行動は許されません。容疑者は、安倍元総理大臣に銃で二発発砲しました。

一発目は当たらず、二発目が命中して安倍氏は倒れたのだと思いますが、実は一発目はその場を通りがかって助けようとした善いサマリア人イエスを撃って、助けられる命を助けられなくしたのだと思いました。

今日の福音朗読は、律法の専門家がイエスに問いかけました。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるのでしょうか。」イエスが「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は正しい答えを返したのです。イエスも「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる」と返しました。

これが一度目のチャンスでした。イエスと出会った律法の専門家が、永遠の命を受け継ぐにふさわしい生き方を開始する、最初のチャンスでした。しかし彼は、「自分を正当化しようとして」そのチャンスを無駄にしたのです。

律法の専門家にもう一度チャンスが巡ってきます。「さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」これにも正しい答えを返しました。「その人を助けた人です。」そして二度目のチャンス、もしかしたら最後のチャンスかも知れない場面でイエスは再び促します。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

この律法の専門家は、最後かも知れない二度目のチャンスを活かしたのでしょうか？その後のことは書かれていませんが、残念ながら二度目も活かせなかったのではないかと思います。「誰が自分の隣人か」にこだわり続けた結果、イエスが示そうとした「あなたは誰かの隣人になろうとしているか」に気付くことができなかつた。

ここからは中田神父の勝手な結びつけです。安倍氏に銃を向け、二発発砲した容疑者も、私たち人類の隣人になるためにおいでになったイエス・キリストに耳を傾けるチャンスを、二度とも失ってしまったのだと思います。一度目で、命の大切さに気付くことはできました。自分がしようとしていることは許されないことだと。許されないことだと分かっているのに、再び発砲して心の声に聞き従わなかつたのです。

誰かの隣人になろうとすることは時には難しいこともあります。心の声は「傷つけてはいけない」と自分に叫びを上げているのに、心の声に背を向け、暴言や暴力で相手を黙らせ、言いなりにしようとしみます。その人は、目の前にいる人を暴力で黙らせているだけではなくて、隣人になろうとしてくれているイエス・キリストをも、同時に黙らせ、傷つけ、痛めつけているのです。

私たちが誰かの隣人になるために、チャンスは一度かも知れません。もし二度チャンスが巡ってくるなら、手遅れになる前にそのチャンスを活かし、握りしめたものを手放しましょう。命に対する深い憐れみ、いづくしみこそ、誰かの隣人になるために必要なことです。